

して、農家だけでも娯楽なんか楽しんでいけるような家庭づくりを、私は女性の立場からやっていきたいと思いません。

## 難しい団体生活

井 高校時代には、具体的な農業、農業経営について両親あたりと大して相談にはならなかったでしょう。ところが今は具体的な相談、話し合いというものが、かなり突っこんだところまでできる

井 そういう点では農業大学校にきたという効果があったということを感じるでしょう。

ところでここは全寮制で、生活指導についてあまりにも厳しすぎるという批判もあるわけですが、私は最近の教育、特に中学、高校を通しての教育に欠けているのがあるのではないかと感じます。といいますのはあまりにも自由を主張する。それも非常に必要なことです。ところが、その自由な行動の裏に自律性というものを身につけていく教育、そういうものが欠けているのではないかと気がするわけです。そういう点で特に学生みなさんに求めたいことは、社会人としての礼節、自主的な

という段階ではないでしょうか。

沢村 ある程度、親父さんたちのいうことに対して批判をするようになったという点ですね。以前はあまり知らないということもありましたけれど、全面的に経験からきているから親のいうことは正しいのかなと感じていました。それを批判できるまでの知識とか実際の体験が乏しかったと思います。

活動と同時にそれを裏づけるころの自律性、そういうものを身につけて欲しいと。

この大学の二年間の全寮制度という得がたい機会に、いわゆる礼節とか自律とかをしつかりと身につけてもらいたいとは思っています。

さわやかな挨拶を交わす、自分たちの住んでる環境というものは自分たちできれいにしようという心がけを身につけて、そして学校生活というものを節度あるものにして欲しいということを感じます。

それから農村人というのは次元が低いという批判が時々あります。例えば合会を開くにしても集合時間というのが農村

時間というように一時間も遅れるということもあるわけですね。そういったことを正常なものに取り返すための学校生活というものを、二年間のうちに心の中にうえて欲しいと私は願っています。

大賀 それは私もつくづく感じます。やはり農村に入ってしまうと、そういう習慣に染まりがちなんですね。学校を出るまでは自分たちが改善していくと強く思っているけれども実際問題としてなかなか困難なわけです。

その点、こういう集団生活の中で、二年間厳しい体験に耐えたということは、みなさんがリーダー的存在となって情熱をもってやって頂きたいと思えます。

やはり誰かがやらなくてはなかなか悪習を改めることはできないわけですから。

後藤 私は寮に入る時はずっと厳しいと思っていただけです。寮生活も未経験です。きゅう屈な所だろうと思っただけですが、そう厳しくは感じませんでした。

梶原 私は高校の時三年間寮生活を経験していましたが、大学の寮とはこういうものかというのが第一印象でした。もっと厳しさを予想していましたが期待はずれでした。

それで初めは大学の規則に沿って過ごすのも苦痛ではなかったわけですから、時がたつにつれて寮の規則でさえ縛られることがいやだなと感じるようになって

ったわけです。やはり自分自身がある程度しっかりした考えをもっていないと、まわりの影響を受けやすいわけですね。それで気がついて立ち直ろうとしても全寮制ですから、みんなが自分たちで改善していかなければならないという考えでやる必要があります。それがまた困難なわけで、考えはあってもなかなか実行に移らないということがこれからの課題ではないでしょうか。



沢村 私は今年一年間寮長をやってきましたが、去年よりは楽になったと思えます。例えば朝の点呼、ラジオ体操にしても三十分遅くなりましたし、大学自体の雰囲気もそうなるように思います。

それから一年生が入学してきて、段々二年生ともなれてくると、いろいろな面でも付き合いが深まってルーズになりはじめ、団体生活の悪い面もみえてきました。

井 やはり学生も慣れてきた、先生の方も難しいことはいまいという感じ方になってきたという気もするわけです。

私自身としてはもう少し厳しくしなければと思っているわけですが。

後藤 厳しくするといっても、何を厳しくするかが問題だと思います。

沢村 やはり団体生活ですから掃除なんかはみんなが一緒になってやるような体制を整える必要があります。

井 私はこの前の成人式の時に、みんなは経済成長の時に生まれ、その期間に育ってきた、人格形成をなしてきた。そういう雰囲気の中で育ってきた影響もあって、モヤン子ということをやったわけです。モヤン子というのは温床の中で何の支障もなく育ってきた。ところが温床の壁が風で吹き飛んで霜が降ってきた

らみんな枯れてしまった。道端で踏まれたりけられたりして育った草は、霜ぐらいいではビクともしない。みんなはそういうことには気がつかないで霜が降ったのが悪いんだという感じ方、傾向をもって居るのではないかと感じました。

従って寮にはちゃんとした規則があるわけで、これをよく守る学生と守れない学生がいるわけです。そういう点ではみんなが自治会としての活動というものを連帯的に盛り上げてお互いが注意をし、助長していくということも必要でしょうね。

## 目標立て地域へ浸透

井 いよいよ卒業し、四月からは農業経営に直接参加されるわけですが、皆さんの抱負をお聞かせください。

後藤 農業に魅力を持つようになってきました。家に帰ってからは、ここで専攻した園芸部門でやっていきたいと考えています。

知識は豊富になったと、私は胸を張って言えると思います。だから親とも、農業の後継者として相談したり、今までで

上に明るく家庭づくりをしたいと考えています。

梶原 この学校で学んだ専門的な知識を参考に、サークルとか仲間を求めて、情報、技術の交換、それから親の意見を尊重して、厳しい農業に立ちむかっています。

沢村 先日家に帰って父親と話し合ったのですが、地域の人は私が卒業して帰ってくるのを期待して話題にしているそう



です。私にはまだ一歩、指導者としての力は実際ないと思います。そこでこれからは、実際の技術的な面を身につけると

共に、指導者としての技術もその地域にとけ込んだ中で、つかんでいきたいと考えています。

井 農業経営をどう展開したいと考えますか。

沢村 基幹作物は果樹(みかん)約二ヘクタールです。しょうがも作っていますので、父がしょうがを中心をやってくれるならば、私は専門的に学んだ知識を利用して、果樹の経営内容を有意義に発展させていきたいと思っています。

